

## 平成 24 年度上越教育大学同窓会岩手県支部「春日山会」開催報告

去る8月11日（土）盛岡市内三寿司総本店にて、上越教育大学から佐藤芳徳副学長をお迎えし、加藤章元学長を囲んで総勢27名で和やかに開催させていただきました。

上記の御二方を除く25名の内訳は、学校勤務が15名（小学校9、中学校2、高等学校4）、大学教員2名（教授1、准教授1）、教育行政8名（文部科学省1、岩手県教育委員会7）です。なお、学校勤務15名のうち7名が管理職に就いております。また、春日山会全体の構成員即ち上越教育大学大学院の同窓生は113名であります。

昨年は東日本大震災の影響でとても開催できる状況にはありませんでしたが、本年は2年ぶりに開催に漕ぎ着けることができ、幹事一同安堵している次第です。

漆原一三会長による挨拶では、今は高田公園の蓮も綺麗な季節である、上越に思いを馳せながら皆の絆を確かめ合う会にしたいとの挨拶がありました。

続いて佐藤副学長から、大学の現況や上越の様子についていろいろとお話しをいただくことができ、参加者一同たいへん勉強になりました。上越の様子を聴き懐かしい思いがこみ上げて来た方も少なからずいたようです。

また、加藤章先生からは、今こそ上越教育大学大学院で培った精神を存分に発揮する時である、岩手の復興、東北の復興に向かって皆で進んでいこうという力強い言葉がありました。

参加者一人一人のスピーチでは、震災に関連した発言も多くありました。中でも、釜石市の小学校の校長先生から、「岩手は被災地であるが、被災者として支援を受ける者の在り方、即ち『受援力』が問われている」との発言がありました。「受援」は上越教育大学の「JUEN」との掛詞です。まさに参加者一同得心したところです。

2年分の思いが詰まった春日山会でしたので、参加者の思い入れも一入であり、瞬く間に時間が過ぎました。近く春日山会結成30年を迎えます。節目として何か記念になる事業ができたかと考えているところです。

